

丈夫が いいね

じょうぶ

1521

金子周一教授



近年、医療の進歩によりがんは克服できる病気となってきた。とはいえ、それは早期発見できればこそ。より手軽に、より正確にがんを発見できる手法が求められている。そんな中、注目を集めているのが「DNAチップ」を使った「マイクロアレイ血液検査」だ。

金大医薬保健

研究域医学系の金子周一教授の研究グループが2009年に開発した。DNAチップは遺伝子を

DNAチップ①



手で持っているのがDNAチップ。ガラス製の板に、たくさんの遺伝子情報が載せられている



第40部 検査を知ろう

かも、検査に必要な血液はたったの2・5ミリ。PETなどの画像診断よりもはるかに手軽で、腫瘍マーカーや便潜血検査よりもはる

かも、検査に必要な血液はたったの2・5ミリ。PETなどの画像診断よりもはるかに手軽で、腫瘍マーカーや便潜血検査よりもはる

かも、検査に必要な血液はたったの2・5ミリ。PETなどの画像診断よりもはるかに手軽で、腫瘍マーカーや便潜血検査よりもはる

9割以上の精度でがん検出

を載せたガラス製の検査器具である。

「世界初」の手法

「世界初」の手法とされるこの検査の最大の特徴は、血液を調べれば、9割以上の高い精度で胃、大腸、膵臓、胆道の4種の消化器がんを検出できる点にある。

消化器4種、血液で

る。

臨床研究では、がんでない人を正しく陰性とした率は93%、がん患者を陽性とした率は98%だった。ステージ0から2の早期患者の陽性率は100%。し

かに正確なのだ。

一例を挙げよう。現在、東京都内の製薬会社に勤め、医師でもある和田道彦さん(51)は昨年、年に一度の人間ドックで、膵臓や胆道を含む消化器がんの腫瘍

の様子を見るところだが、金子教授の紹介で、念のためマイクロアレイ血液検査を受けた。結果は大腸がんの陽性反応。内視鏡で大腸を調べたところ、1、2センチ程度の腫瘍が見つ

の様子を見るところだが、金子教授の紹介で、念のためマイクロアレイ血液検査を受けた。結果は大腸がんの陽性反応。内視鏡で大腸を調べたところ、1、2センチ程度の腫瘍が見つ

大発」の技術が普及すれば、日本国民全体の健康に貢献できるはずですよ」と力説する。

見つかった安心
「こんなに小さながんも見つけられるのか」。和田さんは、安堵とともにマイクロアレイ血液検査の実力に舌を巻いた。

消化器がんの5年生存率は末期なら高くても20%、低ければ1%台とも言われる。しかし早期であれば、最も低い膵臓がんでも30%台、胃がんや大腸がんは100%近くに達する。「がんは治る時代」と言われるゆえんだ。

和田さんは「日本人の3人に一人はがんで亡くなる時代。この『金

◇「丈夫がいいね」は毎週水、木、金曜日に掲載します。

「丈夫がいいね」第1〜38部発売中。お問い合わせは北國新聞社出版局11076(260)35587